



平成19年12月5日

各 位

会 社 名 株式会社 栗本鐵工所
代表者名 取締役社長 横内 誠三
(コード番号 5602 東証・大証第一部)
問合せ先 コーポレートセンター
経営管理ユニット長 太田 晴啓
(TEL 06-6538-7732)

弊社の一部製品に関する試験数値の改ざんおよびカタログ仕様を下回る板厚のパイプを
納入した件についての中間報告等

平成19年11月21日に報告申し上げている標記の件について、弊社における建材事業部を対象とした内部調査の中間報告結果がまとまりましたのでご報告申し上げます。本件につきましては高速道路をご利用の皆様、国土交通省様、高速道路3社様、関係官庁様ならびに株主の皆様をはじめご関係の皆様にご不安と多大なご迷惑をおかけしております事を深くお詫び申し上げます。

1. 調査の概要

今回の不正行為に対して、弊社の社長自身が総指揮者である「特別調査委員会」を設置し、調査ならびに確認作業を継続しております。

まずは今般の改ざん行為を行いました建材事業部に特化して平成19年11月22日から11月30日にかけて、建材事業部の全工場(8工場)ならびに全営業拠点(6拠点)を対象として製品の品質についての調査点検を行いました。

なお、同事業部における試験数値の改ざん実態調査、建材事業部以外の弊社製品ならびにグループ会社製品を含めた範囲の品質につきましては、平成19年12月末を目処として現在調査点検を継続中であります。

2. 建材事業部に関する調査結果について

(1) 円筒型枠における JHS401 号試験の検査機器試験数値の改ざんおよびカタログ仕様を下回る板厚のパイプを納入した物件に関する調査報告について

① 該当物件の調査状況について

平成19年11月現在、弊社にて保存しております徴憑書類(製作通知書、試験成績書等)より、円筒型枠の納入実態を調査いたしました。徴憑書類のうち、板厚に関するものは概ね平成7年度以降分が保管されており、また401号試験に関するものは概ね平成9年度以降分が保管されており、そのすべてを調査対象といたしました。しかしながら、円筒型枠については国土交通省様をはじめ高速道路3社様、各省庁各自治体様ご発注の橋梁に本製品を納入させていただいておりますが、当製品は販売店経由にて施工業者様へ販売する業務形態をとっており、また当製品は仮設資材ということもあり、弊社受注通知書には代金請求先であります施工業者様のお名前はすべて明確な記載があるものの、発注者様の情報が記載されていないもの、あるいは記載されていても不明確なものが多数ございます。現在までに判明いたしました改ざんが行われた物件数は次の表のとおりでございます。

【単位：件】

総件数	カタログ仕様を下回る板厚の パイプを納入した物件	不明物件	正常物件
3,679	110	2,020	1,549
	1300φ 0.4mm 改ざん 2例		
	1200φ 1150φ 900φ 0.2mm 改ざん 61例		
	800φ 750φ 550φ 0.1mm 改ざん 52例		

※注釈

表中最上段でございます『不明物件』と申しますのは、徴憑書類に口径等の記載はあるものの、板厚に関する記載がないため、カタログ仕様を下回る板厚パイプ納入の有無が確認できない物件を指しております。また表中の『板厚改ざん』のなかで、例の合計数と物件数の合計が違いますのは、ひとつの同じ現場で2種類以上の口径を納入した案件が存在するためであります。従いまして、物件数の合計が例の数の合計より少なくなっております。

② 高速道路3社様（旧日本道路公団様分含む）のJHS401号試験について

JHS401号試験につきまして、先般社内にて実施いたしました円筒型枠全種類の載荷実験結果では、正規にJHS401号試験を実施した場合600φ、550φのみが現行の標準仕様板厚で合格することが確認されました。しかしながら、現在までの社内調査では、一部補強等により正規に試験を合格した案件はあるものの、大部分について載荷値の換算表の使用による試験成績書の改ざん行為があったものとしてご報告いたします。

(2) 円筒型枠におけるJHS401号試験の検査機器試験数値の改ざんおよびカタログ仕様を下回る板厚のパイプの納入実態中間調査報告について

注) この調査は継続中であり以下は現段階における概要であり、その結果は調査終了段階でお知らせいたします。

① 試験数値の改ざんの納入実態調査について

昭和40年以前から一部の製品について試験データの改ざんが行われていたようであります。昭和45年頃に、試験時の荷重を80%とする換算表が作成され、一部の製品を除いて試験データの改ざんをしていたことが判明しました。昭和50年頃には、技術改良等により、一部の製品を除いて、正規換算表による試験に合格するようになりました。昭和60年頃になり、試験方法が変更されたことや大口径のパイプの導入により、一部の製品を除いてこれまでの方法では、正規の換算表では合格困難となり、これ以降、80%～35%にいたる各種の換算表が作成され、試験数値の改ざんが常態化するようになり、現在に至ったものと思われま。

② カタログ仕様を下回る板厚のパイプの納入実態調査について

この事実は、昭和60年代以降であると思われま。

また、徴憑書類によると、平成7年から確認されています。

これらのことから、昭和60年代から平成7年までの間にはじめられたと思われま。

(3) 建材事業部のその他の製品の緊急点検に関する調査報告について

① 点検内容

- ・ 建材事業部を対象として、現状において「円筒型枠」以外の製品について不適合がないかを点検した。

② 点検方法

- ・ 工場にある製品在庫、仕掛品、材料について口径、板厚、長さをマイクロメータおよびノギス等で実測し、カタログに記載されている通りかどうかを確認。

③点検日程

- ・平成19年11月26日 本店
- ・ 同年 11月27日 札幌工場、九州支店、福岡工場
- ・ 同年 11月28日 東北支店、仙台工場、中国支店、岡山工場
- ・ 同年 11月29日 東京支社、横浜営業所、松戸工場、名古屋支店、知多工場
- ・ 同年 11月30日 古河工場、交野工場

④点検対象

- ・ 製品、材料実測総数：297品

⑤点検結果

※ 不適合事項

1. フレキシブルダクトの梱包用段ボールはアルミ製、鉄製を共用しているが、アルミ製表示のまま鉄製の製品を出荷していた。(於:仙台工場)
2. ワインディングシースのジョイントがカタログの内径表記と違っていた。(於:古河工場)
3. FPDカバーのカタログ記載内容が現状に合致していない。(於:東京支社、古河工場)
4. 空調ダクトの重量の問い合わせに対して古いカタログを見て答えている。(於:東京支社)
5. 90° ベンドのカタログ記載の寸法表記が製品と違っている。(於:本店)

尚、上記不適合事項の原因と対策につきましては、別添資料1を参照ください。

4. 代表取締役およびその他の取締役等の異動について

当社は、本日開催の臨時取締役会において、下記のとおり代表取締役およびその他取締役等の異動と今後の経営方針について決議いたしました。

(1) 異動の理由

経営責任を明確にして、経営体質の改革・強化ならびに経営体制の立て直しをはかるため、代表取締役社長および担当取締役の辞任と、これに伴う取締役等の異動を決定したものであります。

(2) 一部組織の変更

新たに社長直轄組織の品質管理室を設置することにより再発防止の徹底をはかります。

(3) 代表取締役およびその他取締役等の異動

	(新)	(旧)
福井 秀明	代表取締役社長	常務取締役 執行役員 機械事業部長
上嶋 剛寛	代表取締役専務 企画本部長、財務担当	代表取締役専務 東京支社長、財務・IR担当
蔵本 浩次	代表取締役専務 東京支社長、営業担当	代表取締役専務 執行役員 鉄管事業部長、鉄管・バルブ担当
泉 正三	取締役 大阪本店長、コーポレートセンター長 CSR推進室長、品質管理室長(ISO担当) 監査・関係会社担当	取締役 大阪本店長、コーポレートセンター長 CSR推進室長、監査・関係会社担当
佐藤 尚人	執行役員 鉄管事業部長	鉄管事業部 営業本部長 兼、パイプシステム営業本部長
岡田 博文	執行役員 機械事業部長	機械事業部 技師長
村田 実	執行役員 建材事業部長	(株)クリモトテクノス 管理本部長
小島 眞也	執行役員 財務部長、IR担当	コーポレートセンター 経理ユニット長

尚、現 代表取締役社長 横内誠三ならびに現 取締役 天谷光郎は、顧問に就任予定。

(4) 新任代表取締役社長の氏名及び略歴

新役職名：代表取締役社長

氏 名：福井 秀明（ふくい ひであき）

出身地：大阪府

生年月日：昭和23年 8月13日（59歳）

最終学歴：関西大学 工学部 卒業

略 歴：昭和48年 3月 当社入社

平成 8年 4月 機械事業部 粉体システム営業部長

平成10年 4月 機械事業部 業務部長

平成14年 7月 機械事業部 副事業部長

平成15年 4月 執行役員 機械事業部長

平成16年 6月 取締役 執行役員 機械事業部長

平成18年 6月 常務取締役 執行役員 機械事業部長

(5) 就任予定日 平成20年 1月 1日

(6) 役員報酬の減額について

全取締役および常勤監査役につきましては、平成19年12月度の月俸を100%減額いたします。

さらに、平成20年1月度から3月度までの月俸を70%～50%減額いたします。

5. 今後の方針について

弊社グループにとりましては今回の不祥事により失った信頼の回復が急務と考えております。

つきましては、現状の問題認識を再確認した上で、再発防止策への取組、社外取締役の招聘の検討、コーポレートガバナンスの強化を前提とした経営改革方針を定め、平成19年12月末を目処にご報告申し上げる予定であります。

また、平成19年度下期ならびに平成19年度通期の業績予想につきましても慎重に見直しを行い、公表させていただく予定であります。

以 上

別添資料 1

建材事業部・緊急点検による不適合事項の分析と緊急対策 報告書

No.	不適合事項	原因	対策
①	フレキシブルダクトの梱包用段ボールはアルミ製、鉄製を共用しているが、アルミ製表示のまま鉄製のフレキシブルダクトを出荷していた。 (於：仙台)	管理不足により「鉄」用シールが在庫切れを起こし「アルミ」の表記のまま出荷していた。	シールを止めて「鉄」のスタンプを作り、「アルミ」及び「鉄」表記を確実にする。
②	ワインディングシースのジョイントがカタログの内径表記と違っていた。 (於：古河)	カタログ作成時のチェック漏れが原因。	カタログを訂正中。 (品質には無関係)
③	FPD カバーのカタログ記載内容が現状に合致していない。 (於：東京、古河)	断熱材料の仕入れ先が変更になっているにも拘わらず、営業、工場間の連携不足によりカタログ変更を失念した。	至急カタログを訂正する。
④	空調ダクトの重量の問い合わせに対して古いカタログを見て答えている。 (於：東京)	現状のカタログには重量表を掲載していない。	別途、現状の重量表を作成する。
⑤	90° ベンドのカタログ記載の寸法表記が違っている。 (於：本店)	顧客の要求により製品の寸法を変えたがカタログの変更をおこなっていない。	今後、随時、製作寸法の変更と同時にカタログも訂正をおこなう。

- 注釈：
- ・フレキシブルダクト；金属製の軽量かつ蛇腹で伸縮できるダクトです。
 - ・シースのジョイント；P C 鋼棒用保護管の接続用継ぎ手です。
 - ・FPDカバー；FPD（FIRE PROOF DUCTの略）用のカバーで、厨房排気ダクト用不燃断熱材のことです。
 - ・90° ベンド；空調用スパイラルダクトの90° 曲がりに用いる継ぎ手です。